大阪シニア自然カレッジ
OSNC　2020

MONTHLY LETTER

No９　6月24日
第2、第4水曜発行

編集部＝竹中光子、中務佐代子、上溝敏子、飯田憲三　knziid@gmail.com　090-6665-3750

トピックス　できごとやニュース

今号は４頁

〇移動制限の緩和：府県をまたぐ移動の制限が解除されました。

私たちシニアは、**十分なコロナ予防をした上で 小人数での移動**　がやっとできる状況でしょうか。

そこで「**コロナ済んだら行きたいな**」と題し、この時期お勧めの少人数旅を紹介するコーナー始めます。

十人十色ひろば　今回は今年６月に理事になられた**平谷さん**です

平谷計二さん　理事(11期生)

5年前、家族から背中を強く押されて、自然カレッジ（OSNC）の11期受講生に。その後、有意義な私の時間が始まり、また多くの方々と繋がりが出来、生活の軸が動いたなぁと思っています。

ものの見方・考え方も変わり、20数年前に購入した本「**センス・オブ・ワンダー**」が身近な内容に感じるようになりました。自分の耳で聴き、鼻で嗅ぎ、目で観て、肌で感じたことを大切にしていこうと思います。

どうか宜しくお願い致します。

＊過去に夢中になった事は渓流釣り　素敵なミュージシャンはR・ストーンズのドラマー「チャーリー・W」

しぜん訪ねて　富田林市**錦織公園**など、**１４期生 渡瀬さん**のレポートです

STAY　HOMEを有意義に！

コロナ感染防止で大変な事も多いでしょうが、こんな経験は人生そんなにある事ではありません。**たっぷり出来た時間を有意義に使いたい**ものです。

私は3月中旬に高尾山へ行ったのを最後に籠城生活を続けております。今は読書と本屋で出会った「**大人のぬり絵**」にはまり夜遅く迄夢中になって、家人に呆れられながらもこの時間を楽しんでいます。

小さな庭では、オオデマリ、サンゴジュハムシ、ナルコユリなどにヒゲナガクロハバチの幼虫が繁殖期を迎えピンセット片手に攻防戦の日々もまた楽しいです。

ヒゲナガクロハバチの幼虫

錦織公園／つつじ山

運動不足の解消に出向いた**錦織公園**では、シジュウカラ、イソヒヨドリ等の鳴き声を聞き、出合ったスズメの砂遊びに癒され、満開のツツジは目の保養になりました。

錦織公園／大つつじ

自然の営みの一端を色んな所で垣間見る「気づき」の楽しさは、カレッジに参加させて頂いたからこその発見です。

来年4月には皆さんと再会して、この楽しさの巾が広がる事を待ち望んでいます。

南大阪昆虫記　昆虫部会の方々が出会った昆虫たち　今回は９期生 **井上光司さん**のレポート

ウメエダヒシャク　★みんなも幼虫を育ててみよう！！

①幼虫

②さなぎ

③羽化５日目で交尾

④ｸﾁﾌﾞﾄｶﾒﾑｼに捕獲される

キムネクマバチ　★みんなもクマバチの巣を探してヒラズゲンセイを見つけよう！！

①巣の周りを警戒する

②巣に入る

③巣の中の幼虫

④巣に寄生していた**ヒラズゲンセイ**が出てきた

ハイイロゲンゴロウ

★みんなも田んぼの
　生き物を見つけよう！！
①幼虫
②尾端に気泡を付ける
③交尾

♠昆虫部会の仲間は　**遠足の 童となりて 虫を追ふ**　で楽しんでいます（井上光司）♠

里山だより　６月の空を眺め、里山の生き物と対話する**MAさん**よりのレポート

梅雨です。そして6月21日は**夏至**です。
梅雨と言えばうっとうしい響きですが、
昼間が最も長い季節でもあるのです。
そのせいか、雨で洗われた梅雨の晴れ間は、
空は青く美しい。こんな日、里山でキャン
ピングチェアーに座り、空を眺めました。

ササユリのこんな姿が見れました
楚々と咲き跡を残さぬ笹の百合

大きくなり過ぎたヒサカキの木
を伐っていると、鳥の巣が出て
来ました。卵が三つ。
脅かしてごめんなさい。
無事に巣立ってね。

こちらは**グラジオラス**。
情熱的な夏の花。
里山の手伝いに来られた方が植
えた球根が、見事に咲きました。

ワンダーワールド　「いのちの営み探検部会」の活動／選　今回は もうじき始まる「セミの羽化」

セミの一生は長い？

アブラゼミの場合、木の樹皮に産みつけられた**卵は翌年の梅雨の時期に孵化**して幼虫になり、地面に落ちて土の中にもぐり、地中を移動し、木の根の樹液を吸って成長し、脱皮を繰り返しながら**６年前後地下生活**を送る。羽化の条件が整えば幼虫は地上へ出て成虫になる。　**成虫になってからの寿命は２～３週間**と言われている。

神秘的な羽化の様子

夏の終わるころセミのぬけがらを多く見られるが、いつどのように羽化しているのだろう。

夏の**日が暮れるころ地中から**出た幼虫は、木や草にのぼり安全な場所を確保すると、**背中が割れて羽化が始まる**。最初に頭が出て、頭を下にしたまま足を抜いて、頭を持ち上げて殻にしがみつき体全体を抜く。その後翅が伸びて、**淡いエメラルドグリーンの美しい姿**になる。これまで殻が割れてから１～３時間位　。その後、色も変わり明け方までに飛べるようになる。　**（K.I）**

エメラルドグリーンの翅が数時間で褐色に

羽化の写真は2018.7.13
いのちの営み探検部会時撮影

野の花このごろ　今回はこの時期見られる**葉の変色**について**MK**さんより

この季節になると、庭には**ハンゲショウ**の花が咲き始めます。目立つのはその花ではなくて、花と対になっている葉の方、開花と共にその葉が徐々に白くなっていき、際立ってきます。**ハンゲショウはドクダミ科の多年草**、上部２．３か所の葉腋から花穂（白い小さな花を多数付ける）を垂らします。**虫媒花**ですので葉が白くなるのは虫を誘うための戦略というのが定説ですが、何と巧妙な仕掛けか。また白化は葉緑素が葉の茎に近い所から抜けて行くからで、花が終わると徐々に緑が増えますが完全には戻りきりません。

語源は**半夏生**（七十二候の一つ、夏至から数えて１１日目とそれから５日間、今年は6/21が夏至だから、7/1から7/5をいう）の頃に花が咲き、葉が白くなることから或いは葉が半分白くなることから半化粧の意ともいわれます。

ハンゲショウと同じような作戦をとる植物にやはり今頃に花を付ける**マタタビ**があります。**マタタビは木本のつる性**で、白梅のような可憐な花を咲かせ、同時に周りの葉を白く変化させます。葉が白く見えるのは葉にわずかな空気層を作ることにより、乱反射して白く見えるのだそうで、花が終わればこちらは完全に緑が戻ります。

葉を白く変える植物には**コンロンカ**や**ポインセチア**もありますが・・・、コンロンカは萼片が葉の大きさまで拡大したもの（カリコフィル）、ポインセチアは変色した苞葉が開花と並行して成長したもので、どちらも葉の変色ではないようです。

葉の先から白くなっていく

野鳥このごろ　長年野鳥観察を続ける**MK**さんからのお便り　今回は**ツバメ**です

ツバメ

コシアカツバメ／徳利型の巣

季節を感じる夏鳥といえば、**ツバメ**。繁殖も人目の届く所で行われるため親しさも一入で、最近その数が減っているとの報告もあり心配です。大阪南部の住宅街を飛んでいるのは、圧倒的に**ツバメ（種名）**が多いが、**コシアカツバメ**や**イワツバメ**も飛んでいます。３種は営巣場所や巣の形、行動パターンが違い、見た目の違いは、ツバメの額と喉は赤茶色で上面は紺色、風切と尾は黒、下面は白です。**コシアカツバメ**のシルエットはツバメそっくりですが、名前の通り腰と後頭部が赤く、下面には**褐色の縦斑**があります。**イワツバメ**は喉から下面が白く、尾羽が短いので、小さく見えます。他に北海道に多いショウドウツバメと南西諸島に分布するリュウキュウツバメを合せ**計５種が日本のツバメ科**です。コシアカツバメは西日本に多く、又イワツバメは東日本に多いようです。

イワツバメ

この他ツバメの名が付いてもアマツバメやウミツバメは科も生態も全く違う種です。**コシアカツバメ**や**イワツバメ**は泉北でも営巣があり普通に見られますので、空を飛んでいるツバメを見たら確認してみて下さい。
昨年は、結局**大阪南部のツバメの塒（ねぐら）が見つかりません**でした。南部のどこかに塒を作っているはずなのですが・・・、夕刻にツバメが**集団で飛んでいるのを見かけましたらどうかご一報下さい。**⇒編集部まで教えてください

コロナ済んだら行きたいな！　「けん」の旅日記　／少人数で行く旬の旅　①

６月　西表島（いりおもてじま）**サガリバナ**

自然カレッジに入会した“新入りシニア”の頃は海にハマっていました。ダイビングやスノーケルを楽しむのに、６月の八重山諸島はとても素敵な海域。台風の心配も少なく、梅雨が上ったばかりの青い海に魚たちは湧きたち、サンゴも魚も陽光に煌めいています。
西表島は八重山諸島の主島・石垣島から渡船で４０分のジャングルの島で、周囲のサンゴ礁は多彩で大きく、海遊びには最適です。

この島では６～７月、期間限定の「サガリバナツアー」が催されていて、これがお薦めです。
サガリバナは、朝には散り終える一夜花とかで、ホテル玄関でのピックアップは午前４時。
一歩 外に出ると、満天の星に「**闇よりも星の方が多い**」と感じます。　空に溢れる星々の隙間に「闇」が「星のごとく」点在しているのです。　南の空低くには、人工衛星が青く線を引いて流れて行きます。
河口に着くと、上流のサガリバナ自生地を目指し、マングローブの小川をカヌーで遡行します。
水切り音の合間に「ピョロローー」と**アカショウビン**の鳴き声が森を切り裂き、再び、ひたすらの静寂・・。

やがて川面にサガリバナがぽつりぽつりと漂い始め、いつしか川面はサガリバナで埋め尽くされます。
濃く垂れ込める妖しい香りに包まれ、甘い幻想に囚われ始めた頃、空はすっかり明らみ、徐々に現実に引き戻されてくるのでした。

川面漂う　サガリバナ

めぐり逢う　一夜のはなの　真白花　ただひたすらに　この夏も咲く
（窪田　空穂）

海、川、森、星空、カンムリワシ・・・西表島は遊びの宝箱のような島です。（けん）